



▶現在調査が進む北脇遺跡
(水口町北脇)

北脇遺跡

古代のなぞが
見えてきた

甲賀市には県下最多の540箇所
あまりの遺跡が存在することが確認
され、近年その解明が進んでいます。
最近でも、大型方墳であることが
確認された泉地先の「塚越古墳」や
古墳代中期の大型倉庫3棟も確認
された「植遺跡」、古墳時代後期か
ら平安時代の集落と確認された「下

川原遺跡」などが発掘調査で明らか
にされました。

今回報告する「北脇遺跡」は、民間
開発事業に伴い、今月末までを予定
として発掘調査を行っています。

これまでに9世紀後半から10世
紀前半の遺構とともに須恵器・土師
器・緑釉陶器といった土器類やワイゴ
羽口・戸壁・鉄滓・砥石といった鍛冶関
係の遺物が出土しています。

建物跡は9世紀後半と10世紀前
半に大きく分けられますが、いずれの
時期も、工房と考えられる細長い建
物を伴うことや鍛冶作業の際に廃棄
された遺物が出土することから、鍛
冶関係の遺跡であることが判明しま
した。

特に工房と想定される建物はそれ
ぞれが2×10m程度の細長いもので、
建物の形状から、一棟に数人の工人が
作業していたと考えられますが、鍛冶
炉については、水田にされた際に当時
の地表面が削られてしまっているの
で残っていませんでした。

今回の調査では、一般の集落内に存
在する鍛冶工房とは異なる大規模
な鍛冶工房が見つかりました。

中でも10世紀にはいると工房の編
成がより大規模かつ集約的になってい
たとみられます。つまり、一般集落内の
小規模な自給的生産とは異なる背
景があったとみられることから、郡役
所や寺院などの公的性情をもつ施設
もしくは有力氏族の経営による組織

文化・自然へのとびら

的な工房と考えられ、近隣の春日地
先においては10世紀半ば頃から平安
京をはじめとして西日本二円に緑釉
陶器を供給した生産拠点が設けら
れます。こういった大きな動きと連
動する可能性も想定することがで
きるようになりました。

※甲賀市ホームページに「北脇遺跡」の詳しい
情報を掲載していますのでご覧ください。

甲賀を繙く 「甲賀の御仏たち」写真展 ～市内の様々な仏像彫刻を紹介します～

期 間 ■ 11月3日(祝・金)～11月19日(日)
9:00～17:00
休 館 日 ■ 月曜日
場 所 ■ あいこう市民ホールロビー

「問い合わせ」
文化財保護課

埋蔵文化財係

☎ 86-8026
FAX 86-8380

行路病者と客死

旅の用心の第一が病気であることは今も
昔も変わりありません。医薬に乏しく病
気の予見が困難だった江戸時代には、旅
先で病気になり異郷に果てた人も多かつ
たのです。

森鷗外の祖父白仙が参勤交代に倣い江戸
から津和野へ向かう途中、病のため土山宿
の井筒屋に没したことは、後に鷗外が祖父の
墓を探して土山を訪れたこととあわせ、その『小
倉日記』によってよく知られています。

白仙の場合は「客死」というのがふさわしく思われますが、
庶民のなかにはまさに「行き倒れ」というような哀れな例もあ
り、街道ぞいの村の庄屋日記にはそのような人々の記録が散見
されます。

文政11年8月、備中国(現在の岡山県)から諸国寺社参詣の
途中、北脇村の並木ざわに倒れていた万吉(28歳)は、地元で
養生させたうえ駕籠を仕立てて村継ぎで国元へと送り出されて
います。

市史の小径

第16回

街道を歩く
その6

一方、同じ年の2月、駿府(現在の静岡市)
の旅人某は病身大津宿から駕籠で水口宿に
到着しましたが養生かなわず死去、役人
検視のあと旅籠近くのお寺に仮埋葬さ
れています(いずれも水口藩大庄屋「山
村日記」)。

通行手形が
あれば、こ
のような扱
いがされ、国
元の村役人へも
通知されました。

行路病者の救療や客死
人の扱いは、相互主義により費用
を負担し、丁寧にすべきことが江
戸時代には制度化されていたこと
がわかります。



▲森白仙が客死した井
筒屋跡に建つ石碑

【問い合わせ】総務課市史編纂係
☎ 86-8075 FAX 86-8380